

スピーカー 音質比較

Graham Audio LS-5/9 Cabasse EOLE3

Graham Audio LS-5/9

希望小売価格 ¥650,000 (ペア)~

形式：2Way・バスレフ方式ブックシェルフ型●ユニット：高域：34mm/ ソフトドーム 低域：200mm/ ポリプロピレンコーン●能率：87dB/1W/1m ●クロスオーバー：不明●周波数特性：50-16kHz / ±3dB●インピーダンス：8Ω●サイズ：W280×H460×D275 (mm)●重量：14Kg(1台)●仕上げ：チェリー、ローズ、エボニー



Cabasse EOLE3

希望小売価格 ¥40,000 (1台)

形式：2Way・密閉方式球形型●ユニット：高域：29mm/ ソフトドーム 低域：100mm/ ポリプロピレンコーン●能率：90dB/1W/1m●クロスオーバー：4000Hz●周波数特性：150-22kHz●インピーダンス：8Ω●サイズ：最大径130(mm)●重量：1.3Kg(1台)●仕上げ：ホワイト、ブラック



Graham Audio LS-5/9 外観と特長

今回で紹介する LS-5/9 は、LS と名付けられたイギリス国営放送局「BBC」が厳格な規格を定めた放送局仕様のモニタースピーカーです。LS-3/5a は、あらゆる音楽を芸術性はそのままだにサイズだけをコンパクトに聞かせる、まるで「盆栽」のような美しく凝縮された音楽感を持ったのに対し LS-5/9 は、LS-3/5a の精密で美しい世界観はそのままだに、さらにリスナーに音楽が語りかけてくるような「暖かさ」と「濃さ」を与えられたスピーカーです。

LS-5/9 の特長は LS-3/5a をそのまま大型化したようなユニット構成にあります。ウーファーには、艶・厚み・暖かさに優れる「Polypropylene」を振動板に採用する 200mm 口径のユニットが採用されています。LS-3/5a よりも大口径のウーファーとの繋がりを考え、中音の再現性に優れる 35mm の大口径ツイーターが採用されていますが、このため LS-5/9 の再生周波数特性は「50Hz ~ 16kHz/±3dB」と現代スピーカーとしてはあり得ないほど高域の再生周波数帯域が狭くなっています。しかし、これは当時の LS-5/9 のスペックとまったく同じです。



入力、バイワイヤーに対応する LS-3/5a とは違って、シングルワイヤリングです。サラネットは、はめ込まれているだけなので簡単に外れます。



AIRBOW NA8005 Studio

接続は、audioquest RJ-45G を使用



楽曲は、CD を WAV ファイルでリップしたデーターを使いました。



AIRBOW PM11S3/Ultimate



iCat HTPC Player Windows 8.1

Focal electra 1028BE 音質テスト (比較対象)

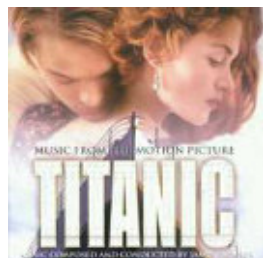
イギリスに本拠を構える Graham Audio が復刻した LS-5/9 は、果たして本来の味わいを現代に蘇らせてくれるのでしょうか？まず、今回の比較対象として選んだ「Focal 1028BE」から聞き始めました。



Focal electra 1028BE

希望小売価格 ¥600,000 (1 台)

形式: 3Way・パスレフ方式フロア型 ●ユニット:
高域: 27mm/ ベリリウム逆ドーム 中域:
165mm/ コーン 低域: 165mm/ コーン × 2 ●
能率: 91.5 dB/1W/1m ●クロソーパー:
350/2200Hz ●周波数特性: 34-40Hz ●インピー
ダンス: 4Ω (最小 3.5Ω) ●サイズ: W264×H
1100×D350(mm) ●重量: 33Kg(1 台) ●仕上げ:
バサルト、スレートグレー、シャンパーニュ



Original Sound Track "TITANIC": Never an Absolution

静寂の中からバグパイプの音が天に向かって立ち上ります。続いてド〜ンという低い音が後方に広がり、ボーカルが祈りを捧げる雰囲気

で中央にビシッと定位します。

タイタニックのサウンドトラックは、正確無比な PMC をモニタースピーカーとして作られました。聞いているスピーカーは Focal ですが、まるで PMC で聞いているような精緻な音です。

冷たすぎることはなく、明るすぎることもなく、癖のないニュートラルなサウンドで 1028be が鳴りました。

とほとんど変わらない滑らかで暖かく、ヒューマニズムに溢れる音を出しますが、接続をネットワークに変えるとモニター的で精緻な音になります。聞こえてくる音は驚くほど細かく、S/N 感も高く、低音も非常に良く出ますが、少しクールな印象です。

1028be がこういう情感をやや抑えたクールな音で鳴ることを始めて知りました。



Hilary Hearn "Bach Concerto"

2 曲を聞いた後アンプのボリュームを変えずにこの曲を再生すると、かなり音が大きく聞こえます。

一般的にクラシックの演奏は Pops などと比

べて「ダイナミックレンジ (最大音量と最小音量の差)」が大きく、最大音量を基準に録音レベルを設定すると最小音量はスピーカーに耳を近づけないと聞こえないほど小さく、「普通」に録音すると Pops と比べて平均音量レベルが小さくなります。だから、このソフトのように音が大きくなるのは不自然です。

ではなぜこのソフトの音量が「大きい」のか説明しましょう。私達がもっぱらオーディオで音楽を聞く環境は、コンサートホールほど静かではありません。そのため交響曲を普通に録音すると、「弱音部」の音が小さすぎて聞こえなくなってしまいます。この問題を避けるため、レコーディングエンジニアはマスタリング時に「コンプレッサー」という機械を使って、大きな音がある程度以上大きくならないようにリミッターを入

れ、小さい音が持ち上げる (大きく) なるように音量を調整します。このヒラリー・ハーンのバッハコンチェルトは、コンプレッサーが必要以上に使われているため、再生音量が大きいのです。

オーディオマニアは「圧縮音源 (MP3 など)」を嫌います。しかし、このヒラリー・ハーンのソフトのように SACD であってもマスタリング時にコンプレッサーをかけ過ぎれば、音源圧縮と同じ原理で音質が劣化します。結果として SACD でありながら、その音質は「圧縮音源」とさほど変わらなくなります。録音とマスタリングは、一般家庭での再生環境を十分に考慮して行わなければならない。しかし、残念ながら最近のグラムフォンだけではなく、数々の賞を取っている著名なレコーディングエンジニア (サウウンドに取り組む沢口工房など) でも、こういった基本的な問題を認識していないエンジニアが多く、優秀録音と言われながら実際には聞くに堪えないソフトが多いことです。またハードウェアでは、富士通テンが発売する「イクリプス」は開発エンジニアが「録音の悪いソフトで我が社のスピーカーは良い音が出ない」と断言していますが、録音の良いソフトが非常に少ない環境でそのように作られたスピーカーでどのようなソフトを聞けば、音楽が楽しめるのでしょうか。そういう私も AIRBOW の初期には、ソフトの善し悪しに大きく依存する音作りを行っていました。その結果出てくる音は聞くに耐えないほど硬く、潤いのないものになって音楽を楽しむ事ができなくなったのです。そういう経験から、今は「心地よく音楽を聴ける音質」を目指しています。オーディオ業界だけにかかわらず、日本の大企業で従事するエンジニアの多くが大きな勘違いをしています。技術を自慢するような開発ではなく、もっと広い視野を持って人に優しい技術を開発して欲しいと思います。

話を戻します。AIRBOW の「CD プレーヤー」でこの曲を聞くと 1028be はコンプレッサーの影響をほとんど感じさせず、生演奏に近い音の広がりや演奏の陰影を描き出します。しかし、ネットワーク接続で NA8005 Studio を使うと、良い意味での音の甘さ (響き) が少なくなり、ソフトをヘッドホンで聞いているような比較的小さな空間に音が凝縮されるような印象を受けます。

タイタニックの試聴では、1028be が PMC のように「モニター的に」鳴ることを経験しました。このソフトでもそれは同じです。ストレートと言えばストレート。面白みがないと言えば、面白みがない。そういう真っ直ぐな音で 1028be が鳴りました。

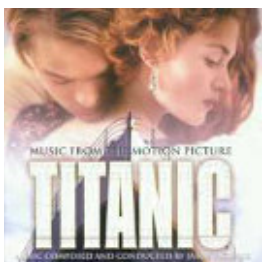


荒井由美 "MISSLIM": 海を見ていた午後

この曲は昨日同じ条件で聞き、リポートを書きました。一夜開けても印象はほとんど同じです。

本来 Focal はもう少し情感がある熱い音を出しますが、今回ソースに浸かっている PC/ ネットワーク・プレーヤーは CD と違ってよい響き (歪み) を発生しないため、音楽の表情や雰囲気や「盛る」要素が少なくなります。USB 接続では NA8005 Studio は CD プレーヤー

Graham Audio LS-5/9 音質テスト



Original Sound Track "TITANIC": Never an Absolution

音が出た瞬間に、一般的な 2Way スピーカーと比べ高域特性が「劣る」事が聞き取れました。早速カタログで確認すると、再生周波数帯域は 50-16kHz と明らかに狭いです。CD のスペックは 20kHz、SACD やハイレゾ、DSD では 50kHz を超え

ますから、LS-5/9A はそれを反映できるスペックを持ちあわせていません。しかし、聴感上で高域限界が少し狭いことは、逆に人間が最も敏感な「中域」に音楽表現を凝縮する効果があります。現代的高性能スピーカーの中では、「ラブリー」な音を出す部類に属する 1028be ですが、ネットワーク・プレーヤーとの接続では、少し無機的でクールな音になりました。LS-5/9A はそのクールさを見事に消し去り、最上級の CD プレーヤーでこの音楽を聞いている雰囲気を感じ出します。低域の再生周波数帯域の限界もそれほど伸びていませんが、圧倒的な中域の濃さがそれを補います。楽器や

人間の声に「魂」が宿ったような鳴り方は、聞いている人間を音楽の世界に引き込みます。脳裏に映画のワンシーン、ワンシーンが走馬燈のように浮かんで消えて行きます。音楽を上手く鳴らす能力としては、Stirling Broadcast LS-3/5a に似ているのですが、Graham Audio LS-5/9 はそれよりもさらに「濃く」、音楽を圧倒的な表現力で再生します。この音こそ、音楽を聞くための音。高性能と引き替えに現代のオーディオ機器が忘れがちな重要なエッセンスを持つ LS-5/9 は、音楽を聞く味わいをグッと凝縮した魅力的な音でタイタニックを鳴らしました。



荒井由美 "MISSLIM": 海を見ていた午後

NA8005 Studio を USB 接続で聞いた心地よさと、ネットワーク接続で聞いた精緻さが上手くミックスされています。

細かい音が聞こえますが、それが音楽鑑賞の邪魔になりません。ボーカルは抑揚が大きく、表情がきめ細やかです。スペック上の周波数帯域やダイナミックレンジは縮小しているのかも知れませんが、音楽表現のダイナミックレンジは非常に大きく、あらゆる音が表情豊かで魅力的です。

Rogers が作っていた当時の LS-5/9 も、Graham Audio の LS-5/9 と同じ「高域特性を犠牲にしても口径の大きなツイーター」を搭載していました。当時自作スピーカーを作ろうと考えていた私はそのツイーターが気に入ってメーカーを調べ、フランスの「Audax」製品だと突き止め、フランスからツイーターを取り寄せたことがあります。Graham Audio LS-5/9 には、私が惚れ込んだ

「Audax 社の最新モデル」が搭載されています。ツイーターというどうしても「高域特性」ばかりに興味が集ましがちですが、音楽を聞くときに重要なのは、「ウーファーと繋がる、ツイーターが再生できる最も低い周波数」が遙かに重要です。20kHz を大きく超える周波数帯域までツイーターでフラットに再現しようとすると、振動板の口径を小さくしなければならなくなります。そうすると高音よりも人間が敏感な「中域」の音が薄く硬く、音色が単調になってしまうのです。これはマイクにも通じることで、周波数特性を欲張りすぎると、最も忠実に記録したい音楽の「表現力」が薄くなります。

こういう「重要なポイント」を分らず、ハイレゾや DSD に手を出す「細かい音が聞こえても、逆に音楽の表情は乏しくなる」という致命的な問題が発生します。CD を超えるスペックを持つ SACD や DVD オーディオが普及しなかったのは、いたずらに特性ばかりを追いかけたそれらの音が「人の心に響かなかった」からです。それを省みず、またしても一部のメーカーの残党がハイレゾを声高に歌い、マスコミが利益目当てに迎合することが残念です。それはともかく、Graham Audio の LS-5/9 が搭載する口径が 34mm に達する

Audax のツイーターが発する「艶のある中域」のなんと魅力的なことでしょう。この中域の濃さこそ、スペック上の高域特性を 16kHz と割り切った効果です。Stirling Broadcast LS-3/5a 同様、Graham Audio LS-5/9 は見事にオリジナルを復元しただけではなく、さらにそれを現代的にリファインすることに成功しています。ペア 65-70 万円（税別）という価格は決して安くはありませんが、オークションなどでつまらない「ビンテージ製品」に手を出すよりも、遙かに安全に当時の音を味わうことができます。

レコード時代、音楽が娯楽や趣味の花形であった当時の「ふくよかなサウンド」が現代に味わえるというのは、とても素晴らしいことだと思います。個人の思いから出発した会社だからこそ、こういう思い切ったこだわりを持つ商品が作れるのでしょう。こういう「わりきり」を持った製品は、大きなメーカーではなかなか作れません。1960-80 年代のクラフトマンシップの素晴らしさと、深さを感じさせる音で海を見ていた午後が鳴りました。LS-5/9 は、ソースが例え最新デジタルサウンドであっても、レコードで私達（1960 年前後生まれ）が感動した音そのもので「海を見ていた午後」を鳴らしました。



ホリー・コール / アルバム: ドント スモークン ベッド 曲: テネシーワルツ

LS-5/9 は他の 2 曲のようにバツハコンチェルトを上手く鳴らすかと思いましたが、想像は

裏切られこのソフトとの相性はそれほど良くありませんでした。バスレフポートから出る低音の収束が遅く、お酒の瓶を吹いたように低音が箱（キャビネット）の中で籠ります。その上ツイーターから出る高音は、ツイーターとバスレフポートの 2 カ所から出ているように聞こえます。弦楽器の色彩感や柔らかさや雰囲気の良い LS-5/9 が

他のスピーカーとは違うのが感じられ、耳障りな音も出ず音質は十分魅力的ですが、音楽の抑揚や空間の広がりなどが不自然に感じられます。ただし、CD プレーヤーならこの曲が上手く鳴ることもあるので、今回はネットワーク接続で聞く NA8005 Studio のモニターライクな音質が LS-5/9 とマッチしなかった影響も大きいと思います。

Graham Audio LS-5/9 試聴後感想

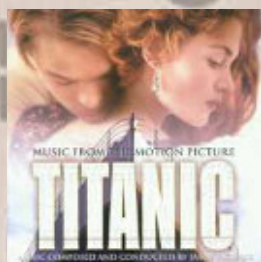
Stirling Broadcast LS-3/5a を始めて聞いた時、身体が震えるほどの感動を覚えました。オーディオでの音楽再生に骨身を削り、心血を注いで作り上げられたサウンドと真の職人魂がその音に宿っていたからです。Graham Audio LS-5/9 を聞いて、その感動が蘇りました。話を車の世界に変えます。イギリスで作り続けられている「モーガン / Morgan」というスポーツカーをご存じでしょうか？ フレームこそ金属ですが、そのボディーは木とアルミで作られます。職人が心を込めて作り上げる大量生産できない、昔ながらの車がイギリスでは今も売られています（大人気です）。日本を含む多くの先進国で利益追求のため葬り去られることの多い歴史的な技術の継承が、イギリスでは個人レベルで連綿と行われています。Stirling Broadcast LS-3/5a しかり、

Graham Audio LS-5/9 しかり。無闇に特性を追うことなく、昔ながらのこだわりの再現を目指しそれを実現している LS-5/9 は高額な最新スピーカーが忘れてきた「情熱」を聞かせてくれます。Stirling Broadcast LS-3/5a、Graham Audio LS-5/9、そして Harbeth（お薦めモデル）に宿るイギリス・クラフトマンシップの味わい。今年訪したウィーンで感じたヨーロッパの古き良き伝統が宿るそのサウンドには、音楽とオーディオの本場ならではの深い味わいが感じられました。ヨーロッパの歴史が育んだクラシックや、イギリスの代表的な Pop シンガー Beatles。1960-1980 年にクライマックスを迎えた音楽文化を是非このスピーカーで味わって欲しいと思います。日本では NHK に相当する、

イギリス国営放送局の BBC が認定というお墨付きを与えた Graham Audio LS-5/9 は、Rogers LS-5/9 の音と魂が現代に蘇ったように感じられる素晴らしいスピーカーでした。



Cabasse EOLE3 音質テスト



Original Sound Track
"TITANIC": Never
an Absolution
前回聞いた球形スピー
カー、「Cabasse IO2」
の印象が芳しくなっ
たので、期待せずに音
を出したのですが、



荒井由美 "MISSLÎM": 海を見てい
た午後
低音が痩せるのはサイ
ズのせいで仕方あり
ませんが、声の質感と
伴奏の高域のクオリ



ホリー・コール / アル
バム: ドント スモー
キン ベッド曲: テネ
シーワルツ
この曲でも低音は明ら
かに不足しますが、驚
いたことに音の広がり
や立体感は先に聞いた

EOLE3 は予想を覆す良い音でタイタニックを鳴らしま
した。
サイズなりの低音量感の少なさはさすがに気になりま
すが、IO2 のように中高音が出しやばりすぎる事がな
く EOLE3 は滑らかで艶のある音です。2Way らしいき
め細かく品のある高音と、小型スピーカーらしい自然
な音の広がり両立し、なかなか魅力的な音でタイタ
ニックが鳴ります。

同サイズでコンセプトが似ている Anthony Gallo との比
較では、2Way の優位で EOLE3 は遙かに音が細かく明瞭
で、細かいニュアンスまできちんと再現されるように思
います。

ティーは非常に高く、比較的高額な価格を納得させら
れます。
中音域もサイズの限界は感じられるものの、厚みと暖
かさが感じられかなり良い印象です。価格の高い上級
モデル IO2 よりも EOLE3 はバランスが良く、音楽が楽
しめました。



LS-5/9 や 1028be よりも自然で好感が持てます。小型
スピーカーの面の苦羅如です。
EOLE3 のような小型密閉スピーカーの低音は比較的ス
パッと切れているはずなので、Audiopro B2.27MK2 の
ような良質なサブウーファーを組み合わせれば、トー
ルボーイ型スピーカーに迫る音質が実現しそうです。
少なくとも今回の試聴で EOLE3 は、1028be、LS-5/9
よりも明らかに自然な表現力でこの曲を鳴らしました。

Cabasse EOLE3 試聴後感想

先日 cabasse MINORCA と IO2 を聞きました。
MINORCA はあまりにも正直すぎ、IO2 はサイズの無理
を押して特性を追いつぎすぎたためか、バランスに優れる
とは評価しにくい結果となりました。
そのため今回試聴した EOLE3 にも、正直期待はしてい
ませんでした。
その予想を裏切り、EOLE3 はこれまで聞いた Cabasse
製品で最もバランスに優れた音質で音楽を再生します。

中域にしっかりと厚みがあり、高域は外観サイ
ズを疑う程細やかで品位の高い音が出ました。さすがに
中～低域は、サイズの限界を感じさせるものの、フル
レンジスピーカーでは出せない中高域の細やかさと艶
やかさは、その低域の不利を考えても特筆に値すると思
います。これで価格が4万円(ペア)なら申し分ないの
ですが、残念ながら価格は4万円(1台)と決し
て安いとは言えないプライスが下げられているのが残

念です。
設置場所に限界があり、良質なサブウーファーを組み合
わせられるなら、Cabasse EOLE3 は間違いなくそれでし
か実現しないであろう、高音質を味わせてくれるで
しょう。サブウーファーとの組合せで、さらなる発展が
期待できるスピーカーです。



2014年5月

「ミュンヘンハイエンドオーディオショウ」のEARのブ
ースにて見た謎のスピーカー、それが「Graham Audio
LS-5/9」でした

